

胃がん検診

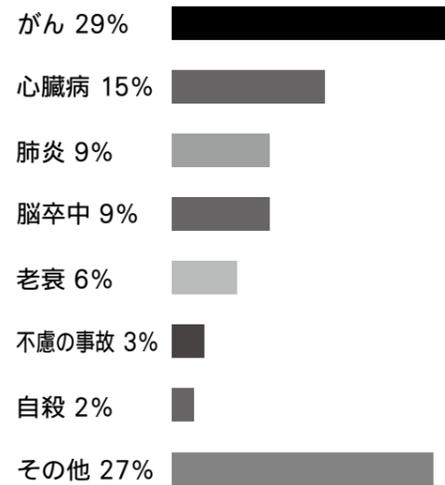
受けていますか

健康推進課成人保健担当 ☎ 23-5311

がんは、死亡原因の第1位であり、全国では、毎年3人ががんがんで亡くなっています(図1参照)。平成26年のがん罹患数(国立がん研究センター)がんと対策情報センター)では、男性で最も多いのが胃がんで、女性の胃がんも、乳がん、大腸がんに次いで3番目に多く、男女ともに胃がんによる死亡率が高い状況にあります。

大崎市のがんの部位別死亡割合においても、男性が2位、女性が3位と、男女ともに上位に位置しています(図2参照)。胃がんの原因としては、主にピロリ菌による胃の粘膜への強い刺激があげられ、塩分の取りすぎ、ストレス、喫煙などが加わると、発症しやすいといわれています。

図1 日本人の死亡原因(平成27年人口動態統計)



は、40代から50代の人の受診が少なく、高齢者の受診が多い状況です。しかし、胃がんは50代から罹患数が急速に増加していきます。

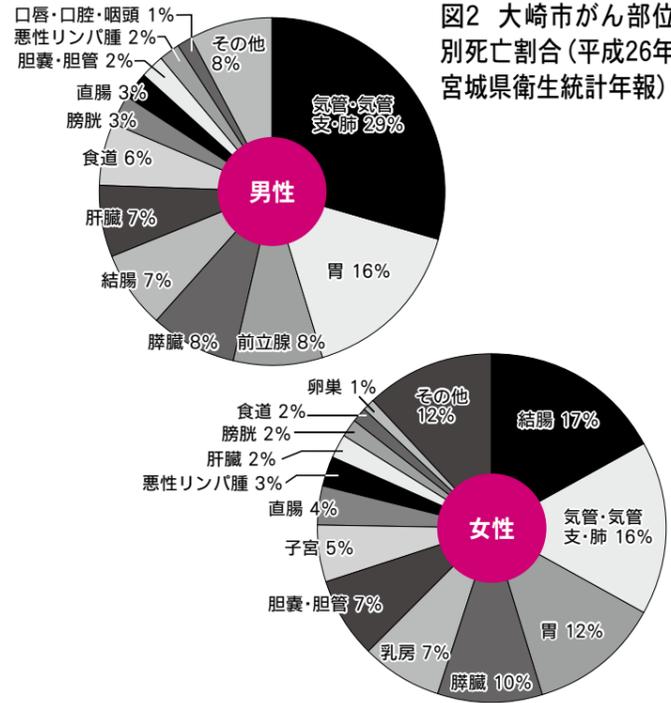
大崎市が実施した平成26年の胃がん検診の結果、がんが見つかり治療につながった人は26人、他にも胃粘膜下腫瘍65人、胃ポリープ263人、胃

炎5197人と見つかったいます。胃がんの初期は無症状であることが多く、「症状がないから大丈夫」という認識は危険です。検診による早期発見・早期治療などによって、亡くなる人も減少していますので、胃がん検診を毎年受けることがとても大切です。

早期発見のポイント 定期検診を受けること

大崎市の胃がん検診では、バリウムを飲んで胃部X線撮影を行う検査を実施しています。胃がん予防のひとつに胃内部のピロリ菌除菌がありますが、除菌する前のリスクをゼロにはできないので、胃がんになることがあります。除菌後であっても、必ず胃がん検診を受けましょう。

図2 大崎市がん部位別死亡割合(平成26年宮城県衛生統計年報)



平成29年度「おおさき市民健診」の申し込みが始まります

平成29年度「おおさき市民健診」の申込書を2月上旬までに世帯ごとに郵送します。受診しない理由の把握にも努めていますので、受診しない場合も必ず提出してください。

申込期限 2月16日(木)

「特定健康診査」の受診票は、大崎市国民健康保険に加入する40歳から74歳までの人に郵送します。

がん検診やそれ以外の各種検診は、加入保険に関わらず受診出来ますので、希望する人は申し込みをしてください。

申込期限日以降も随時受け付けますが、受診票の送付時期が遅れ検診日に間に合わないこともありますので、早めに提出してください。



図1 平成27年度の受診件数と医療費

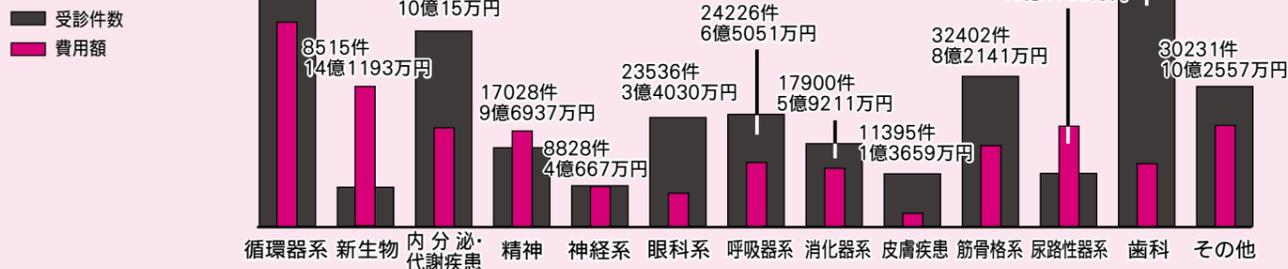


図2 循環器系疾患における上位5疾患

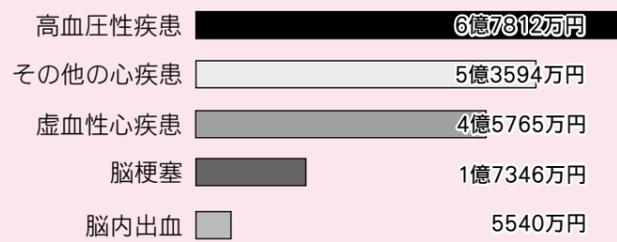
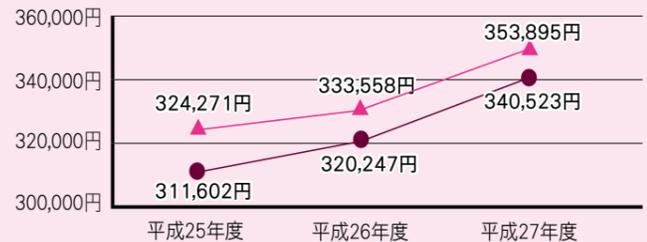


図3 一人あたりの医療費



平成27年度診療における大崎市国保の医療費は、件数・費用額ともに高血圧や心臓疾患、脳血管疾患などの「循環器系疾患」の割合が高くなっています(図1参照)。

循環器系疾患の中でも、上位5つは「高血圧性疾患」、不整脈や心臓弁膜症などの「その他の心疾患」、「虚血性心疾患」、「脳梗塞」、「脳内出血」となっており、「循環器系疾患」の9割を占めています(図2参照)。

国民健康保険から見た市民の疾病の様子

保険給付課国民健康保険担当 ☎ 23-6051

現在わたしたちが安心して医療を受けるためには、いずれかの健康保険に必ず加入しなければなりません。サラリーマンなどが会社で加入する社会保険や共済組合とは別に、自営業や農業など、勤務先の健康保険に加入していない人の医療を保障する制度が国民健康保険(国保)です。

国保は、加入している被保険者からの保険税と国や県の負担金などを財源として市が運営しています。普段の生活や健康診査などで自分の健康を守り、医療費の増加を防ぎましょう。